

2020年度 第2回C協議会【議題】

1. これまでの活動内容の振り返り 【資料3】2020.7.6活動概要
2. C協議会の提言のための整理
 - ・初期ひび割れは劣化の防止として抑制する必要がある。 ⇒ 劣化の懸念の有無検討
 - ・初期ひび割れはない方がよい。 ⇒ 抑制より防止が望まれる。
 - ・初期ひび割れの原因は、自己収縮、乾燥収縮、温度応力、沈降現象 など
 - ・ひび割れの原因は、収縮を拘束することで生じる。
 - ・拘束を減じることは実質困難である。 施工手順を変更などが考えられる
 - ・収縮を減じることはコストUPにつながる。 ⇒ 予算化が必要
 - ・乾燥収縮を減じるには、乾燥収縮率を減じることが重要、単位水量の低減ではない。
 - ・自己収縮を減じるには、セメントの反応速度を抑制する必要がある。 ⇒ 施工に影響
 - ・温度応力を低減するには、いろいろな策がある。
⇒ 単位セメント量を低減つまり、単位水量を減じる。
高性能AE減水剤の活用で単位セメント量を低減 ⇒ コストUP？
低発熱性のセメントの使用。 ⇒ 施工性やコストに影響
フライアッシュの使用 ⇒ 施工性に影響、生コン側の対応
保温養生、型枠の保持期間の延長 ⇒ 施工性に影響
解析でひび割れ予測な困難 ⇒ 外気温のリスクが存在する。
ひび割れを計画的に制御できるか？ ⇒ 負の要因を減少させる努力が必要
3. 成果のまとめ方
 - ① 「温度ひび割れの抑制対策」【資料4】
 - ② 「対策のチェックリスト」の作成
 - ③ 「べからず集」の作成
4. 普及活動の方法